共感性を育む体育
－　低学年の話し合い活動に着目して　－

学籍番号（229335）
氏　　名（砂田亮資）
主指導教員（井上功一）
副指導教員（森井亮和）

１．はじめに

1.1 研究背景と目的

幼児期後期・小学校低学年では発達課題として周りと関係性を作っていく上での基礎的な能力の獲得が発達の上で大切とされている.しかし,現在の小学校低学年の児童はその時期にコロナ禍があり,他者と関わる機会が少ない状態でそういった時期を過ごしてきたことによってこれから対人関係などに困難を抱える可能性が考えられる.このことから対人関係を構築する上で大切な共感性を育むことが大切であると考えた.そこで橋本ら(1996)が共感性を高める上で「会話経験が大事な要因となる」といっているため,低学年の体育の授業に話し合い活動を取り入れて共感性を育むことを目指した授業実践をすることしたが,先行研究では低学年にむけて行っている共感性の研究はなかったため,低学年の体育に話し合い活動を取り入れることによって共感性を育むことが出来るのかを目的とした.

1.2 共感性について

共感性とは,他者の感情状態を共有する精神機能であると言われており(梅田ら2018).これまでの多くの研究では,共感を「認知的共感」「情動的共感」の2つに分けたり（Davis1983,Decetyら2006）,別の研究では「行動的共感」「身体的共感」「主観的共感」の3つの要素に分けるものを提案している(梅田ら,2014).しかし,共感性は一面に捉えるのが難しく,いくつかの要素から考えられていることが多い.共感性を高めるメリットとしては「共感性を高めることによって視点の異なる様々な人々と関わる協調的な行動スキルの学習をすることができ,より良好で安定的な対人関係を築くことができること(首藤1994)」や「共感性は向社会行動を動機づける要因や攻撃行動を抑制する要因になること（桜井,1986）」があげられている.

２．授業実践の概要

授業実践では,話し合い活動を多く取り入れたゲーム領域のボール蹴りゲームを小学校2年生に行った.内容としては常にグループで活動しており,単元前期は技能面に重点を置き話し合い活動をせず,単元中期ではグループで戦術練習をしながら話し合い活動を取り入れ,単元後期ではリーグ戦をしながら話し合い活動を取り入れた.また,「自己開示をする会話経験が共感性を高める」(橋本ら 1996)ということもあり,その一助となるようにワークシートで友達のよいところを書くようにした.

３．研究方法

児童の話し合い活動がどう行われるか,またその中で共感的な言葉はどう変化していくかあるいは,どういった話し合いで共感的な言葉が増えていくかを見るためにグループに IC レコーダーを配布し,それを基に逐語記録をとり,その内容から「共感的な言葉」と「非協力的な言葉」を数え分析した.また,ワークシート分析も行い,ワークシートは「技能」と「態度」と「思いやり」(共感性に直接かかわるものとして設定)にわけ,それぞれの変化を見た.分析には Microsoft Excel を用い検定ではマンホイットニーの U 検定を行った.

４．結果及び考察

1.1 ワークシート分析

ワークシート分析では, 話し合い活動が共感性を高める効果があることがわかった. 基本的には「技能」が一番多い割合を占めており, 次に「思いやり」, 最後に「態度」であった. 授業進行による変化を見たが, 話し合い活動による影響は「思いやり」にのみ現れた. 各項目の変化を見たところ児童の中で「技能」という分かりやすい部分から「思いやり」という他者との関係性の中でのことが多く現れるようになった. また, その中でもさらに, 自分と誰かというところから, 他者と他者の行為にまで記入するようになっていった. これらのことから, 児童の視点が拡がったと考えられる・

1.2 逐語記録の分析

逐語記録の分析では, 班ごとに分析を行った. 分析の結果から話し合い活動において「非協力的な言葉」というネガティブなものよりも「共感的な言葉」の方がワークシートの「思いやり」項目の増減に関わっていることがわかった. また, 話し合い活動においてより具体的な会話や「非協力的な言葉」に対してしっかりと返しているグループの方がより共感的な班といえることがわかった. これらのことから, 話し合い活動において「共感的な言葉」を増やすことは大事だが, より中身の濃い会話にする工夫や班編成をすることが重要であり, また単に「非協力的な言葉」を減らすだけではなくそういった言葉が出てきたときにどうするかも共感性を育む上で大切なことであるとわかった.

５．まとめ

本研究から低学年の体育で話し合い活動を取り入れることは児童の共感性を育むために効果があることがわかった.また,話し合い活動の中身が共感性を育む上で重要な要因となっていることがわかり,体育においてグループ分けでは技能レベルが大切になるが,教師側が話し合い活動において上手く話し合いが出来るようなグループを作ることも大切であることが伺えた.また,「非協力的な言葉」に対してはもちろん指導も必要だがそういう時にどうしていくかを指導していくなど話し合い活動の時の振る舞いについての指導も大切になることも伺えた.低学年への話し合い活動の効果についてはある程度効果があることが分かったが,より正確な話し合い活動と共感性の関係性を調査することや低学年で話し合い活動を多く取り入れること自体の課題にも取り組んでいかなければならない.